

アミーゴ会だより

2015年7月
通巻第23号
季刊 2015-III
www.mex-jpn-amigo.org



発行人：上原尚剛
編集人：河嶋正之
 鴻巣勝明
事務局：笠井道彦

メキシコ・日本アミーゴ会設立 15 周年記念号

アミーゴ会設立 15 周年を迎えて

会長 上原尚剛

企業のメキシコ駐在経験者やメキシコに留学された方、或いは旅行でメキシコに行かれた方等でメキシコが大好きになった方々に会員になって頂き、会員相互の懇親を図ると共に、メキシコと日本の友好親善を深める事を目指して結成された私達のメキシコ・日本アミーゴ会は 2000 年 9 月に設立されてから今年で 15 年目を迎えました。その誕生に至る経緯に就きましては、鴻巣副会長が 4 月の「アミーゴ会だより 22 号」で詳しく述べて居られますのでお読み頂いたと思います。この寄稿によって、アミーゴ会の設立については、日本航空の社長を務められ、その後「ホテル日航メヒコ」の日本側出資会社「日墨ホテル投資」の社長を務められた利光松男さんと、日本航空から「ホテル日航メヒコ」に社長として出向され、後にアミーゴ会の事務局長を務められた仲村聡さんのお二人のご尽力が如何に大きかったかが良くお分かりと思います。残念乍らお二人共既に鬼籍に入られましたので、15 年を迎えた事をご報告して、ここに改めてご冥福をお祈り致したいと思います。

アミーゴ会の発会式とそれに続く懇親パーティーは 2000 年 9 月 18 日にお台場の日航ホテルで、Uribe 駐日メキシコ大使や NHK の「ためしてガッテン」の立川志の輔さん等をお招きし、総勢 170 人が参加して盛大に行われました。その時の様子の写真を掲載しますのでご覧下さい。



私は 2004 年に設立時から会長を務められていた利光さんから会長を引き継ぎましたので今年で 11 年になりますが、この 11 年を振り返って見ますと日本とメキシコの間で色々な動きがありました。先ず重要な出来事として、2005 年 4 月に日本とメキシコとの自由貿易協定 (FTA) を含む経済連携協定 (EPA) が発効しました。これは日本にとってはシンガポールに次ぐ二番目の EPA ですが、シンガポールとの交渉に於いては農業問題など微妙な問題が無かった事を考慮すると事実上初めての EPA と言えると思います。既に 30 カ国近くの国々と EPA を結んでいたメキシコとの EPA の交渉経験を生かして、その後日本はアジアの多くの国々と EPA を締結していますので、1888 年の日本にとって初めてのメキシコとの平等条約締結のお蔭でそれ迄の諸外国との不平等条約を平等条約に改める事が出来た歴史を改めて想起させました。

目次

| | |
|--|---|
| 1. 設立 15 周年:「アミーゴ会設立 15 周年を迎えて」 | アミーゴ会会長 上原尚剛 ...1 |
| 2. 私とメキシコ:「人生を楽しみ、長生きする方法 —ラテンの生き方に学ぶ」 | アミーゴ会会員 桜井悌司 ...3 |
| 3. メキシコへの誘い:「レフォルマに並ぶ歴史(銅像偉人案内)—連載再開へ乞うご期待」 | アミーゴ会副会長 鴻巣勝明 ...5 |
| 4. 活動報告:「第 2 回シンコ・デ・マヨ in 駒沢オリンピック公園を開催して」 | アミーゴ会会員 蔵野佳好子 ...6 |
| 5. お知らせ:「アミーゴ会設立 15 周年記念パーティー (9 月 19 日)」 | |
| 「Fiesta Mexicana2015 in お台場(9 月 19 日~21 日)」 | 「Fiesta Mexicana 大阪 2015(9 月 11 日~13 日)」 ...2 |
| 6. トピックス:「堀口九万ーを上院が頭影」「レオンに総領館を新設へ」「カルロス・アルマダ新大使が着任」 | ...6 |

次いで2009年は、1609年にロドリゴ・デ・ビベロがフィリピン総督の任務を終えてヌエバ・エスパーニャ（現メキシコ）への帰途御宿に漂着して家康に会い、家康との間で交易に関する協定書を結ぶ等、日本とメキシコとの公式交流が始まって400年となるのを記念して、官民合同による「日本メキシコ交流400周年実行委員会」が設けられ、アミーゴ会は幹事団体として協力する事になりました。具体的には「17世紀のメキシコ/スペインと日本との交流」をテーマに駐日メキシコ大使館・たばこと塩の博物館の後援を得て、林屋永吉元スペイン大使を初めとするこの分野の権威をお招きして4回に亘り講演会を開催し、会員のみならず一般の方も多数参加されて大変好評でした。因みにこの400周年を記念して、御宿町はロドリゴ・デ・ビベロの生地テカマチャルコ市と姉妹都市関係を樹立する事になり、石田町長さんを団長とするミッションがメキシコを訪問してテカマチャルコを初め各地で大歓迎を受けました。そしてこの年御宿にもアミーゴ会が誕生し、私たちのアミーゴ会との交流が始まっています。

この日本メキシコ交流400周年記念事業の後、2010年～2011年にはメキシコ独立200周年・革命100周年を記念して、アミーゴ会は独立に至る歴史的背景、革命を齎した社会的背景等に就いての理解を深める為、4回シリーズでの講演会を開催し、更に2013年～2014年には支倉常長遣欧使節団派遣400周年記念行事として、当時の日本とヌエバ・エスパーニャ（メキシコ）並びにスペインとの関係についての知識を深める為に同じく4回シリーズでの講演会を開催しました。これら講演会も日本に於けるその道の優れた専門家をお招きして行われ、何れも満員の聴衆で好評を博しました。

此処までを振り返って見ますと、アミーゴ会の活動の中ではこれら講演会の開催が時宜を得た事もあって最も活発だったと言って過言ではなく、それには担当された幹事の森和重さんの並々ならぬご努力があった事をご報告して改めて感謝の意を表したいと思えます。

講演会以外でもこの間アミーゴ会は設立の趣旨に沿って毎年様々な活動を行って来ました。その主なものは、会員相互の懇親を目的とするものとして東京での年次総会の開催に併せての懇親会と大阪での会員懇親会の夫々年一回の開催、年4回の「アミーゴ会だより」の発行、年1回の会員懇親ゴルフ大会の開催等があり、友好親善に寄与するものとしてはリセオ（日墨学院）の日本文化交流旅行に参加するメキシコ人高校生のホームステイ受け入れ、毎年9月にお台場で開かれるフィエスタメヒカーナへの協賛、そしてこれらの活動について案内・報告するホームページ (<http://www.mex-jpn-amigo.org/>) の運営等を行って来ました。

これらすべての活動をご報告する紙面の余裕はありませんので、「ホームステイ」と「アミーゴ会だより」に就いて書きます。先ず毎年6月から7月にかけて日本文化交流旅行団として来日するリセオの学生さんのホームステイは、アミーゴ会発足以来副会長だった櫻田武さんが中心となって、将来メキシコを背負って立つ若者に身近に日本を感じて貰う良い機会として注力して来た活動です。その櫻田さんは残念乍ら2012年に急逝されましたが、その御遺志を引き継いでその後も継続して来ました。しかし昨年はどうしてもホストファミリーが必要な数だけ見付からず已むを得ず断念せざるを得ませんでした。幸い今年は笠井事務局長が色々手を尽くした結果、実施可能な見通しとなっています。

皆様のお手許にお届けする年4回の「アミーゴ会だより」は会員の皆さんからの寄稿によって支えられて居り、会員同志の動静を知る上でも大切なツールの役割を果たして来ました。編集を担当される河嶋幹事、寄稿者の発掘・交渉を担当される鴻巣副会長を初め多くの幹事の方々のご努力で内容も充実して来て居り、会員の皆様にもご満足頂けたのではと思えます。

此処まではこれまでのアミーゴ会の歩みをごく簡単に振り返って見ましたが、今後につきましてもこれまで同様の活動を通じ、皆様のご期待にお応えすべく努めて参りたいと思えます。中でも会員同志の親睦を深める懇親会はこれまで年一回総会の後に開いていましたが、今年はアミーゴ会創立15周年を記念して、9月にも発会式を行ったお台場の日航ホテルで再度開催したいと思っており、何れ正式にご案内致しますので多数のご臨席をお待ち致します。なおこれを機に今後懇親会は年二回開催する方向で検討していますが、会員の皆様からも何かご要望等ございましたら是非ご提案頂きたくお待ちしております。

<了>

[編集部注：掲載写真は鴻巣副会長提供]

お知らせ

アミーゴ会設立15周年記念パーティー

日時：2015年9月19日(土) 12:00～14:00
会場：ホテル日航東京@お台場
詳細：アミーゴ会員にはメルマガにて後日、時間帯・サロン名・会費など確定次第ご案内します。
☆9月19日は隣接会場で開催される第16回 Fiesta Mexicana 2015 in お台場(右欄参照)の初日です。
皆様お誘い合わせのうえ、メキシコ・日本アミーゴ会15周年記念パーティーとフィエスタメヒカーナに是非お出かけください。

お知らせ

Fiesta Mexicana フィエスタメヒカーナ 2015

- ① **Fiesta Mexicana 2015 in お台場 Tokyo**
会期：9月19日(土)～9月21日(月・祝)
会場：お台場ウエストプロムナード他
詳細：<http://www.fiestamexicana-tokyo.com/>
☆メキシコ写真コンテスト作品募集(8月31日締切)
- ② **Fiesta Mexicana 大阪2015**
会期：9月11日(金)～9月13日(日)
会場：新梅田シティ・ワンダースクエア
☆アミーゴ会西日本懇親会は9月12日(土)夕に開催

人生を楽しみ、長生きする方法

—ラテン的生き方に学ぶ—

元関西外国語大学教授・元ジェトロ監事
会員 桜井 悌司

[メキシコ・日本アミーゴ会西日本は2月5日、関西外大の桜井先生を講師に迎えて「ラテン諸国での異文化交流」というテーマの講演会を開催しました。当日は30人弱が集まり盛況でお話も大変好評でした。そこで桜井会員に改めてご寄稿をお願いしました。]



今年3月に7年間勤務した関西外国語大学を退職した。それ以前は、日本貿易振興機構(JETRO)で41年にわたり、貿易投資振興業務に従事した。その間、スペイン、メキシコ、チリ、イタリア、ブラジルに合計15年9カ月にわたり駐在した。大変恵まれたことに、スペイン・ラテンに10年、イタリア・ラテンに3年4カ月、ポルトガル・ラテンに2年5カ月を経験したことになる。その間、一貫して、日本的生き方との比較で、ラテン的生き方につき考え続けてきた。

人生を楽しむ長生き

最近、つくづく思うことは、「日本人は、長生きするために長生きする」のに反し、「ラテン人は、人生を楽しむために長生きする」ということである。これは、大きな相違である。

日本の病院に通院していると興味ある場面に出くわす。特に深刻な病状とは思えない高齢の患者が多い。頻繁に来院しているせいか、お互いに顔見知りで、待ち時間を利用して他愛もない会話を楽しんでいる。まるで病院に来て、会話をするのが唯一の楽しみのようなのである。病院に通院すると早期に症状が発見できるので、即長生きに繋がることになる。しかし、食べたいものも食べない、飲みたいものも飲まない、やりたいこともやらないで我慢するとなると、何のための長生きかという疑問が生ずる。もう少し、人生を楽しむという「ラテン的な生き方」を学ぶべきではないかと余計なことを考えてしまう。

香港人の長生きの秘訣

話は飛ぶが、2010年3月に近畿経済産業局主催の香港映画見本市視察ツアーに参加した。本来の目的以外に自分の目で確かめたいことがあった。何故香港人は長寿なのかというテーマである。我々一般の持つ香港のイメージと言えば、ダイナミックだが、狭くて猥雑然とした街である。しかし、今や一人当たりのGDPも日本人のそれを上回りつつあり、平均寿命も日本人と激しく争うほどである。わずか4日の滞在であるが、香港人の長寿の原因がわかった気がした。

早朝にホテルの前のヴィクトリア公園に散歩すると、大勢の人々が所狭しと、太極拳を始めとし、剣や道具を使った体操等、ありとあらゆる体操を楽しんでいる。公園の一角では花の展示会が開催されており、花で装飾された人形や動物像や馬車が華麗に展示され、池坊等日本の生け花も展示されている。60歳以上の方は無料である。香港人の美に対する感覚が理解できたように思えた。夜ともなれば、繁華街の食堂、レストランは大賑わいである。友人や家族と一緒にワイワイ騒ぎながら会話と食事を楽しんでいる。食欲も旺盛である。街を歩けば、藤原紀香や山田優や無印のポスターを見受けられる。

要は長生きに必要なこと、すなわち運動を通じての健康管理、美しいものを愛する心、楽しい会話とおいしい食事、良いものを選ぶ嗜好を香港人は実践しているのである。

ラテン系と平均寿命

私は当初、ラテン系はあれほど飲み食いし、生活をエンジョイしているのだから、平均寿命も比較的短いに違いないと考えていた。しかし、調べてみると、ラテン系は意外に長寿国が多いのである。「人生を楽しみながら長生きする」という理想的なスタイルなのだ。

下記表を見るとそれがわかる。欧州のラテン系諸国はもちろんのこと、発展途上国の多いラテンアメリカ諸国でも結構健闘している。

表：世界の平均寿命ランキング

| 順位 | 平均寿命 | 国名 |
|-----|------|-----------------------|
| 1位 | 84歳 | 日本 |
| 2位 | 83歳 | アンドラ、イタリア、ザンビア |
| 8位 | 82歳 | フランス、モコ、スペイン |
| 19位 | 81歳 | ポルトガル |
| 29位 | 80歳 | チリ |
| 34位 | 79歳 | コロンビア、キューバ、コスタリカ、米国 |
| 44位 | 77歳 | ドミニカ共和国、パナマ、ペルー、ウルグアイ |
| 55位 | 76歳 | アルゼンチン、メキシコ、ベネズエラ |

出所：世界の平均寿命ランキング(WHO2012年版)

注記：平均寿命は2012年の男女混合平均

ラテン系諸国の不思議な魅力

ラテン系の国に一度でも滞在すると多くの方が好きになる。スペイン・イタリア・フランス大好き人間、メキシコ・チリ大好き人間などである。ブラジルにいたっては、ブラキチ(ブラジル・キチガイの略)と呼ばれるほどである。何故好きになるかの理由は様々である。陽気・明るい、楽観主義、フレンドリー、人間的、人生を楽しむ姿勢等々が挙げられる。要するに、ラテンの人々は、日本人にとって割合気楽にリラックスして付き合える存在なのである。

人生を楽しむために心得なければならないことがある。まず最初は、人生は一度しかないという簡単なことを真に認識することである。第2に、人生を何が何でも楽しむのだと固く決意すること、第3に、人生を楽しむためには何をすべきかを真剣に考えることである。おしゃべりする、食べる、愛する(対象は人でも自然でも物でも良い)、歌う・踊る、着飾る、旅行する、休む、趣味を活かす、芸術・音楽・スポーツの鑑賞、眠る、散歩する、運動する等々である。すべてを実行に移すことは難しいので選択をすることになる。人生を長く楽しむには、健康であることお金をある程度持っていることも前提となる。

人生を楽しむための6つのキーワード



上記の心構えを踏まえた上で、次の6つのキーワードを実践することが必要である。以下説明する。

キーワード1：楽観主義に徹する

楽観主義者は、悲観主義者に比較して、当然ながら人生を楽しむことができる。ただし、何でも神任せにしてはならない。世の中には自分で努力してできることとそうでないことがある。自分でやれる仕事はしっかりやる。しかし他人がからむ場合は、可能な限り協力してもらうように努力し、その後は楽観主義に徹するようにしなければならない。人事をつくして天命を待つという姿勢である。それでもうまくいかない場合は、メキシコ人がよく使う *ni modo* で行くのである。時にはダメ元で行くことも必要となる。

キーワード2：好奇心旺盛

好奇心は長生きの秘訣である。好奇心は脳を活性化し、老若男女の友人作りに最適であり、孤独からも解放する。あることに関心を持って、調べていくと、付随する情報を知りたくなるという経験をした人も多いと思われる。ラテン系の方は総じて、好奇心が旺盛だし、話し相手のことをいろいろ知りたがる。見知らぬ人同士でも大いに話がはずむ。

2014年8月にスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラに巡礼に出かけたが、膝の調子が悪くなり、途中で中抜けし、次の地点までタクシーで28キロを走行したことがあった。偶然同乗してきたスペイン人の男女は初めての出会いであったにもかかわらず、30分間途切れなく話し続けていたのには正直驚かされた。

誰でも自分のことにつき聞かれたり、質問されたりするとうれしいものである。ということは、日本人も常に話し相手の外国人に対して沢山の質問を用意しておけば喜ばれる。フランスでもスペインでもブラジルでもメキシコでもアニメや漫画が大流行であるし、盆栽なども人気を集めている。日本食もブームを迎えている。話題には事欠かない。実践のみである。

キーワード3：家族の結束

世界中どこでも家族の絆は強いものだが、ラテン系の家族の結束の強さは特別である。ラテン人と結婚する場合、家族との良好な関係の維持に最大限の努力をする覚悟が必要である。例えば、日本人女性がメキシコ男性と結婚した場合、毎日、男性の母親に電話したり、毎週末全員で集まったりする。核家族に慣れている日本人、とりわけ日本人男性にとっては、四六時中連絡を取り合わなければならない状況は結構つらいものがある。

イタリアなどではママの強さは絶対だ。母親の影響が強すぎて、子供の親離れが難しくなり、なかなか結婚しない。このような現象は「マンミズモ」と呼ばれるが、出産率の低下につながる。

キーワード4：友人・友情

友情、友人関係は最高の宝であることは万国共通である。印象的には、ラテン系のアミーゴ関係の方が、日本のそれより強い印象である。ラテン系の国々で仕事をするのは容易ではなく、日本と比べると時間が

多くかかるのが通例である。しかし、一度信頼できるアミーゴを見つけると当初予定より迅速に問題が解決することになる。読者の皆さまも経験済みと思われる。

1992年にスペインで開催されたセビリャ万国博覧会の際に、アミーゴにまつわる興味ある経験をした。日本政府館の事務局長を務めていたのだが、何らかで世話になったスペイン人の友人から日本館への優先入場の要望が頻繁に寄せられるのである。当初は、本人のみであったが、徐々に、友人、家族等どんどんエスカレートして頼んでくる。挙句の果ては、日本館と並び人気館であった富士通館の優先入場まで依頼してくる。さすがに他館への優先入場はお断りした。彼らは、アミーゴのアミーゴまで面倒をみることによって、真のアミーゴ関係になるという発想をすることがわかった。何でもダメ元で依頼することの有効性も学んだものであった。

キーワード5：愛

ここで愛と言った場合、男女間の恋愛のみならず自然、美、芸術、スポーツ、趣味、モノ等に対する愛も含まれる。ラテンの世界では、男女とも高年齢になっても「イイ男でいたい」、「イイ女でいたい」と考える。

イタリアなどでは、70歳を超えた男性が、赤いマフラーや白いマフラーで颯爽と現れる。服装や化粧にも怠りない。日本では、高年齢者が派手な服装をしたり、厚化粧をするとなんだかんだと非難されるし、恋でもしようものなら何を言われるかわからない。ラテンの世界では、「歳をとっているからこそさらに人生を楽しむ」ことになる。したがって、「歳甲斐もなく」とか「ええ年をして」というような言葉は、禁句となる。日本でも人生を楽しみながら長生きするには、他人の批判など気にしない心構えが必要だ。自然、美、芸術、モノ等に対して愛情を持つことも重要である。

日々感動できるものを探す努力をすれば、生きがいが生まれるし、人生も楽しくなる。日本で今流行っている「草食系の男性」などは、全くお呼びでないことになる。

キーワード6：ボランティア精神

チリに駐在して感心したことは、チリ人のボランティア精神の高さである。例えば、消防士はすべてボランティアで、毎日順番を決め、消防署に詰めており、非番の人々も火事が発生すれば、すぐに現場に馳せ参じるシステムが整っている。地震や洪水がおこれば、すぐに「チリはチリを助ける」というキャンペーンが組織され、それぞれが可能な範囲で支援し、協力する。

人のために役立つことをしたり、自分を必要としている人々がいることを認識することは生きがいに繋がる。またボランティア活動を通じて、友人もできる。

以上のようなことに加え、前述のように健康に常に留意し、予防に努めることが大切であることは言うまでもない。最初に香港人の例を紹介したが、ラテン系の生き方とよく似ていることが理解できる。ラテン系と日本人の考え方や行動様式はかなり異なるので、香港人の生き方が人生を楽しむ上で、大いに参考になるものと思われる。

<了>



レフォルマに並ぶ歴史(銅像でたどるメキシコ偉人案内) 連載再開へ乞うご期待

副会長 鴻巣 勝明

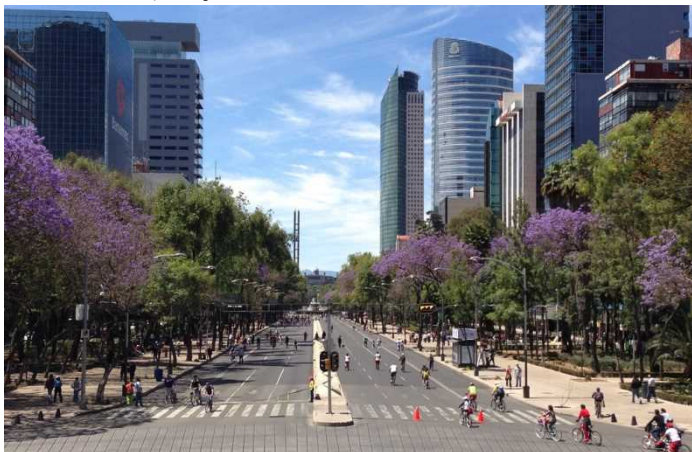
2013年の10月号から始まったレフォルマの銅像の連載記事が、今年の4月号で最後になるとの連絡がメキシコ観光・メキシコから届いた時にはビックリと残念が重なって仕舞いました。この連載の提案は私が最初に持ちかけた事でもあり、次回帰墨の際には執筆して頂いたメキシコ観光の若いお二人に是非お話を伺おうと決めておりました。レフォルマ通りへの思い入れもふくめて……。

レフォルマ通りは他のどの「通り」よりもご縁があり、一層親しみを持っています。それは1966年にメキシコに行った当初から、仕事場がレフォルマに面していた事と住まいがどれもレフォルマから入って直ぐの通りに有った事です。

最初の住まいはトラテロコ団地／三文化広場のマンション(メキシコではデパルタメントですが)でしたが、仕事場はインスルとの交差点に近いレフォルマ105番地で、まさに通りに面した一階の一等地でした。当時のレフォルマは車も少なく事務所前のラテラル(側道)に一日中駐車が出来た程ですから、いかに落ち着いた街であったか想像が出来るでしょう。以降の仕事場もレフォルマに面した場所でしたし、加えて現在の住まいもご存知ソナ・ロサです。

当時のメキシコ・シティーは世界の色々な街を見て来た自分にはまるで天国の様に感じていましたが、特にレフォルマは、パリのシャンゼリゼを模して作ろうとしたマキシミリアン皇帝の作品ではあっても、大変素晴らしい大通りだと実感していました。

当時のレフォルマ両側の大樹は緑濃く、両側から通りを覆い、あたかもトンネルを作り出だすかの感じがしました。この面影は今でもチャプルテペック公園付近のレフォルマに若干の雰囲気が残っています。今や樹齢や大気汚染で寂しい木々となっていますが、最近レフォルマに花咲くハカラダの木々をあちらこちらで見かけましたが、これはレフォルマに賑わいを出す為なのでしょうか。



何十年間と行き来したレフォルマですが、交通量の少ない時代に存在したグロリエタ(ロータリー：環状交差点)はその大部分が現在は取り除かれ、そこに在ったいくつかの銅像も移動させられて仕舞いました。

しかしメキシコの歴史に大きな貢献をした「あの人

達」はじっとそこを動かず、メキシコのその後を見守って来たのです。その人達とは？

そんな訳で大きなグロリエタに立つ像は目だったり又目印にしていた事から知ってはいたものの、「ラテラルに立ち並ぶあの銅像の人達」の事は時折台座の表札を見る程度で、それ以上先の詮索はして来なかった自分だったことが分かりました。

好奇心はあっても自分で銅像の一人一人を調べ上げる時間と労力のバランスを考えた時に、旅行会社のメキシコ観光・メキシコにご相談したところ執筆を快諾頂き、あの連載が決まりました。

全長4.5kmに及ぶ区間のレフォルマに立つ77の銅像は、ポルフィリオ・ディアス大統領の時代に発案されたそうです。政府はDFと連邦の各州に二つずつの台座を供与し、各々がメキシコの歴史上著名な地元の貢献者、それは政治家から軍人、知識人、科学者に至るまでを選んで銅像を作成する様に指示したのだそうです。

第一期の完成式は1895年の2月14日だそうですが、その時も又第二期に至るまでも、レフォルマに並ぶ銅像に女性は一人も見当たりません。言われてみればメキシコの歴史でこれと言う傑出した女性は思い出せませんが、若し入れるとすればメキシコ革命で活躍したあの女性兵士たち「アデリータ」でしょうか。



しかし最近の動きには、新しい追加人物を置く話やそれぞれの銅像の顔を歩行者や観光客がより見やすい方向に変える案などが出ているそうです。

2013年10月号から7回続いた連載は今まで知らなかったメキシコを教えて呉れる大変興味深い内容でしたので、4月号での連載終了は個人的にも大変残念な事です。まだまだ

紹介されていない銅像からはきっとクレームが来ること必至でしょうから、何とかメキシコ観光・メキシコにご相談しようと思います。

アミーゴ会も原稿作成に協力を惜しまぬ事を申し出て再考をお願い致しましたので、読者の皆さんも次号『アミーゴ会だより10月号』からの連載再開にご期待下さい。

<了>

第2回シンコ・デ・マヨ in 駒沢オリンピック公園を開催して

会員・(有)エバーラスティング代表 蔵野佳好子

5月9日(土)～10日(日)、「第2回シンコ・デ・マヨ “Cinco de Mayo” in 駒沢オリンピック公園」が開催されました。お出かけくださった皆様にお礼を申し上げます。企画運営責任者としてその概要を報告します。

今年にはメキシコシティから、ラ・レイナ・デル・マリアッチ優勝者で、現在ペペ・アギラルに師事しているレティ・ロペスとロマンチック・バラード歌手ヘスス・ナインを招聘しました。彼らの歌声にはメキシコ好きはもちろん、全く知らなかった方たちも圧倒されていました。



土曜日は残念ながら、朝の天気予報で「本日は久しぶりの雨ですよ！」なんて気象予報士が嬉しそうに放送したものだから（GWは暑いぐらいの天気が続いた為）、晴れているにも関わらず客足がもう一つでしたが、日曜日は快晴で結構お客さんも足を運んでくれました。

日曜日にはスペシャルゲストで映画の中でメキシコに引っ越ししたと話題であった「クレヨンしんちゃん」が双葉社さんのご協力と遊びに来てくれました。メキシカンダンスチームと一緒に踊ったり、子供達とピニャータ割りを楽しんだりして大いに盛り上がりました！



アミーゴ会の石井幹事も本部テントで自社扱いのマンゴーギフトの受付をするかわら、プログラム配布をお手伝い頂きました。実に多くの方たちから「石井さんお久しぶり！」と声がかかる様子を見ながら、こういうイベントは、メキシコにつながるのある人達の再会の場所にもなるのだと、文化を伝える意味とは違った意味を感じて嬉しくなりました。



来年はもっとパワーアップした形で続けて、恒例のイベントになるようにしていきたいです。

春夏秋冬 メキシコ三昧!

今年の夏にはメキシコ州と姉妹都市でもある埼玉県で「メキシカンピアガーデン」、秋には「Dia de Muertos」のイベントを渋谷で開催する計画もあります。こうなると、メキシコに関する大きなイベントとして、春「シンコ・デ・マヨ」、夏「メキシカンピアガーデン」、秋「フィエスタ・メヒカーナ*」に「Dia de Muertos」と3シーズン制覇となります。あと、冬に「メキシカンクリスマス」ができれば、全てのシーズンでメキシコが楽しめるということになりますね。

みなさんも何かイベントのアイデアがあれば、どうぞお寄せ下さいませ！ <了>

*フィエスタ・メヒカーナは皆様もご存知の通りフィエスタ・メヒカーナ実行委員会の主催で弊社開催ではありません。
 [編集部注：第2回シンコ・デ・マヨの詳細は下記を参照。
 FB：<https://www.facebook.com/cincodemayoinKomazawa>
 さらにエバーラスティング社のHP：www.everlasting.tv

トピックス

堀口九萬一を上院が顕彰

メキシコ革命中の1913年2月、マデロ大統領の家族を堀口九萬一臨時代理公使が日本公使館で庇護した史実を讃える記念版をメキシコ連邦上院は中庭の榮譽の壁に掲示 (<http://www.mx.emb-japan.go.jp/senado2015jp.html>)。 [編集部注：矢作俊彦著『悲劇週間』(08.12 文春文庫)が活写]

レオンに総領事館を新設へ

グワナファト州レオン市に2016年1月、総領事館が開設。3月には名誉領事にフランジュッティ PROECI社長を任命 (<http://www.mx.emb-japan.go.jp/franyutijp.html>)。同州には現在約100社の自動車関連企業が進出、家族を含めて日本人3,800人が在住。日本語日刊紙も発刊とメキシコ紙が報道。

カルロス・アルマダ新大使が着任

Carlos Fernando ALMADA LÓPEZ 新大使が5月20日信任状を奉呈。アルマダ大使の前職は連邦政府通信運輸省(SCT)の運輸担当次官。駐ポルトガル大使を歴任(1997～99年)(在日メキシコ大使館ニュースレターNo.123)。

あとがき：メキシコ・日本アミーゴ会設立15周年記念の第2弾として、上原会長に「主要活動報告」の寄稿をお願いしました。ANAの直行便就航構想も明らかにされるなど、近年の日本とメキシコの多分野での関係深化を反映して、アミーゴ会の事業も一段と多様化してきました。『アミーゴ会だより』も機関誌としての任務を果たすべく内容の充実にいっそう努めたく存じます。会員諸氏のますますのご支援とご協力を引き続きお願いします。 [か 20150701]